

平成 29 年度いずみこども園自己評価

・ 保育目標

安心してすごせる第 2 の家庭となるような保育

ひとりひとりを大切にし、丁寧なかかわりをする

落ち着いた静かな環境の中で子供達の主体的な遊びを保障する

本年度の重点的目標

丁寧に子どもとかわる（ひとり一人をよく見ていく）

遊びを進めて子どもが主体的に遊ぶ

職員間の連携を図る

目標・内容	反省点
保育目標認識度	認識は、おおむねされている。しかし丁寧について微妙に理解が違うので、堂理解の統一を図るかが課題である。
保育者間の連携	クラス間・保育者全体と連携も難しい IPAD を使い情報が、聞き間違いの内容にし、理解を深めるようにしたが、根本的な保育については十分な話し合いが必要。
保育内容	乳児・一人ひとりの生活リズムを大切にしてい中で、遊びの充実を図ることができるようにしていく。 幼児・子どもの成長のあわせ知識・製作をさらに進めるためにどうするか考えていく。小学校に向けて実につけることを丁寧に実行していきたい。
研修	園外研修に多く参加し保育についての学びを多くし一人ひとりの保育の知識が増えていく中で保育の充実が図られるようになるとよい。 わらべ歌その他の園内研修では、子どもの感染対策・安全を守るために役立てることができた。
保護者との連携	連絡ノート・懇談を通して保護者とのかわりもてたが、さらに保育について課程との連携が取れるように保護者の立場に立ち進められるようにしていく。
安全への取り組み	不審者対策・消火訓練など実践を通して安全への取り組みができたが、一人ひとりの安善への取り組みをさらに進めることが大切だと思う
総評	乳児・ひとり一人に合わせた生活、基本的かわりを大切に進めることができたが、発達を捉えながらさらに遊びを進めていく。 幼児・あそびと子どもの成長発達を考えて保育できたが、保育者の計画として身に付けなければいけないことは、しっかり保育計画にいれていく。